

# 進路だより

箕輪進修高校 進路指導室

2010.11.18

No. 59

## 灼熱アジア 第4回 日韓中 緑色戦争 を見て



先日日曜日 NHK スペシャルの4回シリーズの「灼熱アジア」の最終回の番組が放映されました。このシリーズはアジアを舞台にした産業界の熾烈な国際競争を扱い、これからの日本がどうアジアと向き合うかを問う番組で、毎回大変考えさせられるよい番組でした。

今回は、激しい工業化で世界最大の汚染発生源ともなった中国を舞台に、将来の80兆円市場と言われるグリーンビジネス（環境ビジネス）の主導権を争う日本と韓国と中国との有り様を扱ったものです。

先陣を切ったのは、半導体、液晶と、日本から次々に盟主の座を奪った韓国。「低炭素・緑色成長」を国策に掲げ、環境産業でも市場制覇を目指しています。韓国政府は、中国政府と太いパイプを作り、環境関連企業を現地に送り込み中国側が抱える具体的な問題を次々に解決しているのです。

一方、日本も中小企業を中心に韓国企業の厚い壁に阻まれながらも、得意の自社技術を活かし中国の環境分野に続々と打って出ようとするのですが、中々ビジネスに結びついていかないのです。技術的には極めて高いものを持っているにもかかわらず、価格が高過ぎ、中国市場に食い込めないのです。排水処理装置を売り込む大和化学工業は、自前での生産をあきらめ、自社で開発した特許技術も全て中国企業に開示して生産を委託し、決死のビジネスモデルで大転換をはかりました。北京大学の研究室にも三千万円する装置を無償で寄贈し、一緒に装置の開発を申し出て、何とか自社の開発した装置の売り込みを図ろうと、これまでのビジネスモデルの常識を覆すような策で、中国市場への食い込みをねらいました。

中国の緑色戦争の勝者こそが、アジア全土、そして世界の環境産業のリーダーシップを手にする。国ぐるみで海外進出を狙う韓国、技術の優位性を活かしたい日本。この番組を通して、技術の優位性だけでは通用しなくなっている現在の世界の中で、日本の工業はどう活路を開いていったらいいのか考えさせられることが多くありました。

技術力に優れていても価格が相対的に高くなっている日本の製品は先進国には向いても、市場のより大きな経済力のない地域には進出しにくいジレンマを抱えています。韓国企業や日本の大和化学工業に見られるように、目先の利益はなくとも中国との信頼関係をまず築き、中国に深く関わってからビジネスを展開しようとするという必死の戦略が道を開くことになるのでしょうか。



皆さんはこの種の番組に興味がないかもしれませんが、たまにはこれからの日本の在り方を考える切っ掛けとして、この種の番組も見て欲しいものです。

### 二次以降求人もうしばらく待って

まだ就職が決まらない生徒が何人もいますが、今後に強い不安を感じ始めている人も少なくないでしょう。支援員の唐澤さんが今一生懸命になり、探しています。新しい求人がすぐに見つかりませんが、1月にはハローワーク主催の就職面接会も予定されています。もう少し待ってば出てくると思いますのであまり焦らずに待ってください。

新規求人情報：(有)片桐製作所(伊那市西町) 非公開男子1名 製品：工学関連精密部品、FA 機器構成部品等